



いとう



海援隊旗(二隻の旗)

<http://www.ryoma-kinenkan.jp>

雲外 UNGAI SOUTEN 蒼天

大政奉還百五十年

龍馬の考える大政奉還とは

龍馬が大政奉還論を最初に聞いたのは、幕臣の大久保忠寛(一翁)からだろう。龍馬は文久3年(1863)4月初めに大久保と面会した。直後に、大久保は松平春嶽に手紙を書き、龍馬に託した。その中で大久保は、「同人(龍馬)は真の大丈夫と存、素懐も相話」と書いており、自分の考えを龍馬に伝えたことが分かる。具体的な内容までは書いていないものの、大久保は前年に幕閣や春嶽の前で初めて大政奉還論を披露して、その時は皆に大笑いされている。こうした背景から考えて、大久保の語った「素懐」には、大政奉還論が含まれていたと考える。

龍馬は、この大政奉還論を4年間温め、時期を見極めて慶応3年(1867)に実行したのだろう。大政奉還が成功した時、小説などでは龍馬が「よくも断じ給えるものかな。余

は誓ってこの公(慶喜)の為に一命を捨てん」と、大政奉還を決断してくれた慶喜を救うために命をかける決意を描くものがある。これは果たして史実だろうか。私が知る限りでは、龍馬関連の史料から似たような記述を見つけることはできない。そもそも龍馬を初め当時の多くの人が、大政奉還を終着点だと考えていない。徳川家がすべての権利を放棄し、王政復古を行い、新しい政治体制ができて初めて新時代の幕開けとなる。大政奉還後にまだまだ奔走している龍馬が、大政奉還の成功で満足し、慶喜を高く評価するとは思えない。

徳川家にとって、大政奉還が大きな

徳川家にとつて、大政奉還が大きな

徳川家にとつて、大政奉還が大きな



大政奉還に向けて 後藤象二郎宛 龍馬書簡(慶応3年10月13日付)

徳川家にとつて、大政奉還が大きな

徳川家にとつて、大政奉還が大きな

大政奉還が成功したことで、平和倒幕が成ったと喜び、慶喜のために一命を捧げる、と本気で考えていたとすれば、かなり甘い考えだといえる。また、大政奉還を平和倒幕と位置づけ、武力倒幕と相反する手法のように扱われることが多いが、龍馬の中では一連のものだと私は捉えている。龍馬にとつて大政奉還は、倒幕

派の人たちは、最後は武力行使で権力を奪う道を考えており、龍馬もその一人だった。大政奉還が成功したことで、平和倒幕が成ったと喜び、慶喜のために一命を捧げる、と本気で考えていたとすれば、かなり甘い考えだといえる。また、大政奉還を平和倒幕と位置づけ、武力倒幕と相反する手法のように扱われることが多いが、龍馬の中では一連のものだと私は捉えている。龍馬にとつて大政奉還は、倒幕

の一過程であって、それだけで完結するものではない。有名な慶応3年9月4日の龍馬宛て木戸孝允書簡で、木戸は倒幕を大芝居に見立てて、乾頭取(板垣退助)と西吉座元(西郷隆盛)の一致協力が重要だと説いている。最終的には武力行使をにらんだもので、龍馬もこれに同意している。そして、慶応3年10月13日の後藤象二郎宛て龍馬書簡では、「大政奉還が失敗すれば薩長に顔向けができない」と書いていることから、龍馬の中では大政奉還を成功させた先に、武力行使の可能性を想定していたようだ。

大政奉還を平和倒幕と捉え、それを推進した龍馬を平和倒幕論者と決めつけるのは、龍馬の一面だけを捉えた評価で、正確ではない。完全なる新国家を創るためには、徳川家を完全に一諸侯に戻さなければならぬ。その時こそ、戦争の可能性があるため、龍馬にとつては、大政奉還後が大事だったのであるだろう。

当館の使命は、複雑な龍馬の考えをできるだけ分かりやすく、正確に伝えることにある。来年4月の新館オープンに向けて、こうした点を念頭に置いて、準備を進めている。

三浦 夏樹

県外巡回展リポート(中)

「土佐から来たぜよ!坂本龍馬展」は、1月の岡山を皮切りに熊本、東京、広島と4会場での開催は無事終了いたしました。綿密な資料確認、情報共有、担当学芸員さんたちの情熱で、各地とも見事な展示でした。156日間、62,357人の方にご覧いただくことができました。本当にありがとうございました。

前号では岡山、熊本のご紹介をしましたが、今回は紙面の都合上、6月に開催した東京展のご紹介となります。広島展については次号で紹介しますが、担当の主任学芸員・岡野将史さんに企画展の様子を動画でご紹介いただいています。広島展の会場風景をぜひARでご覧ください。

圧倒的な存在感 「龍馬が江戸へもって来たぜよ」

東京 ホテル雅叙園東京(6月1日〜25日)

会場は「ホテル雅叙園東京」(旧・目黒雅叙園)。その中にある東京都指定有形文化財の「百段階段」での龍馬展開催は、90余年を経た会場の重厚さと華やかさが、圧倒的な存在感を放っていました。百段階段で結ばれた7つの部屋は、荒木十畝、磯部草丘、鏑木清方ら昭和初期の画家、名工たちによってつくられています。そんな会場に龍馬(資料)は悠々自適に佇んでいるかのようでした。



シェイクハンド龍馬像と熱い握手をする孫正義さん

「まあ、こんなに間近に見られるなんて。来てよかったわ」という声が多く聞こえました。目の前に龍馬の手紙があるという



着物姿の人も多かった=百段階段「漁礁の間」で

の演奏も行われ、ふくよかな一絃琴の音色が会場の人々の心をつかみました。

今回の企画展の目玉は、シェイクハンド龍馬像の弟(第2号)が誕生したことです。記念館本館(既存館)の前にある龍馬像と全く同じものです。

主催者であるソフトバンクグループ社長・孫正義さんは「企画展終了後には、本社内で国内外の関係者が多く集まる場所に置きます。龍馬さんと世界中の人がシェイクハンドして、人類の幸せをつなぐ。握手の鎖を広げていきましょう」龍馬さんの大きさに比べると私はまだまだ小さい。志は大きいがまだ何もできていない。龍馬さんに近づけるよう頑張るしかない」と語られています。

龍馬像は約束通り、企画展終了後、ソフトバンクグループ本社(東京都港区・汐留ビル)内に設置されました。前田 由紀枝



広島県立歴史博物館(福山市)の主任学芸員・岡野将史さんによる企画展紹介

臨場感は、この会場ならではのものです。初めて龍馬に接する人も、時代感のある会場の雰囲気とともに龍馬の考え方や時代に思いを馳せているようでした。会期中には、清虚 洞一絃琴宗家・峯岸一水さんの

学芸員の視点

仮暮らしの記念館

亀尾美香



歴史民俗資料館収蔵庫。天井まで届く棚の上半分に当館資料が収まる。

「自宅」をリフォームするの少しの間仮暮らし、というのはよく聞く話だが、これが「博物館」だったらどうだろう? 現在の龍馬記念館はまさしく、後にも先にも一度きりであるう仮暮らし状態である。

に見せる必要のある会議は、同館に場所を借りて行わねばならない。購入や寄贈を受けた資料も、すぐには収蔵庫に入れられない。ちょっと資料の現物を確認したくてもできない。同様に、参考図書類もほとんど手元にないので、時には仕事に支障をきたすこともある。

本年4月、約1年の休館に入った龍馬記念館がまず行ったのは、荷造りと引っ越しである。引っ越し先も一カ所ではなく、職員と当座必要な事務機器などは隣の桂浜荘へ、それ以外は県内3カ所に分散して運ばれていった。そのうち、資料は保存や保安上の問題から、南国市にある歴史民俗資料館の収蔵庫の一角をお借りし、保管していただいている。

堅牢な収蔵庫に収められて安心ではあるが、収納スペースが自宅外にあるのと同じで、いろいろと不便が生じる。他機関への資料貸し出しや返却、資料を委員の方々が楽しみでもめる。

飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう!

視聴方法は簡単!

- ① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード
- ② アプリを起動しマークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。
※本コンテンツは2017年12月31日まで閲覧可能です。





生き残った天誅組志士 二人の男爵 石田英吉と北島治房

東吉野村
エッセイ①



石田英吉

内の水郡長義ら僅かに4人であった。

現在、安田町のまちなみ交流館・和で開催されている「石田英吉展」。初名は伊吹周吉。医師の家に生まれた周吉は、文久2年、家業

平は法隆寺の寺侍をしていたという。性格は豪放、学問を好み、勤王の志あつく、尊王攘夷の説を唱えて国学者の伴林光平（河内）、医師の乾十郎（五條）らと京都、大坂で奔走していた。文久3年、前侍従・中山忠光を主将に、吉村虎太郎、松本奎堂、藤本鉄石らが五條に兵を挙げると、鳩平は伴林光平とともに軍用金を調べて五條の本陣に駆けつけた。

文久3（1863）年8月14日、「天皇の大和行幸」の御先鋒を自任して京都東山・方広寺を出発して伏見から淀川を下り堺に上陸、17日大和の五條代官所を襲撃して「五條御政府」を樹立するも「8・18京都の政変」により朝敵となった天誅組は、40日後の9月27日、東吉野村で事実上壊滅した。

京都を出発した約40名の天誅組の中で土佐出身の志士は19名と最も多い。

津野町・吉村虎太郎（27）榊原町・前田繁馬（26）佐川町・那須信吾（35）「高知市」上町・上田宗児（22）小高坂・池内蔵太（23）同・土居佐之助（23）秦泉寺・森下儀之助（33）同・森下幾馬（30）潮江・鍋島米之助（24）同・田所騰次郎（23）同・沢村幸吉（21）同・楠目清馬（21）長浜・島浪間（21）安田町・伊吹周吉（25）同・安岡斧太郎（25）香南市・安岡嘉助（28）室戸市・島村省吾（19）、吉村虎太郎家来・木村楠馬（23）同・中倉才次郎（24）の若者たちである。そして、生きて明治維新を迎えたのは土佐の石田英吉（伊吹周吉）大和法隆寺の北島治房（平岡鳩平）三河刈谷の伊藤謙吉（伊藤三弥）河

鳩平も吉野の各所に奮戦して敗れ、伴林光平とともに逃れて京都に潜んだ。同年10月、平野國臣と生野の変に加わろうとしたが破陣の報に接して参戦できず、翌元治元年（1864）筑波山の義挙には天狗党員となつて画策し、戊辰戦争の江戸攻めでは浪士の二団引き連れて官軍総督・有栖川宮熾仁親王を守護した。

明治2年（1869）長崎県小参事となり、ついで秋田、長崎、千葉、高知の各県知事を歴任。海援隊で二緒だった陸奥宗光（和歌山）が第一次伊藤内閣に入つて農商務大臣になると英吉はその次官になり、のち貴族院議員、男爵となつた。明治34年（1901）4月8日没。享年63歳。

一方、平岡鳩平（当時31歳）は、後の男爵・北島治房である。鳩平は法隆寺の寺侍をしていたという。性格は豪放、学問を好み、勤王の志あつく、尊王攘夷の説を唱えて国学者の伴林光平（河内）、医師の乾十郎（五條）らと京都、大坂で奔走していた。文久3年、前侍従・中山忠光を主将に、吉村虎太郎、松本奎堂、藤本鉄石らが五條に兵を挙げると、鳩平は伴林光平とともに軍用金を調べて五條の本陣に駆けつけた。

一方、平岡鳩平（当時31歳）は、後の男爵・北島治房である。鳩平は法隆寺の寺侍をしていたという。性格は豪放、学問を好み、勤王の志あつく、尊王攘夷の説を唱えて国学者の伴林光平（河内）、医師の乾十郎（五條）らと京都、大坂で奔走していた。文久3年、前侍従・中山忠光を主将に、吉村虎太郎、松本奎堂、藤本鉄石らが五條に兵を挙げると、鳩平は伴林光平とともに軍用金を調べて五條の本陣に駆けつけた。

鳩平も吉野の各所に奮戦して敗れ、伴林光平とともに逃れて京都に潜んだ。同年10月、平野國臣と生野の変に加わろうとしたが破陣の報に接して参戦できず、翌元治元年（1864）筑波山の義挙には天狗党員となつて画策し、戊辰戦争の江戸攻めでは浪士の二団引き連れて官軍総督・有栖川宮熾仁親王を守護した。



北島治房

来年は明治維新150年、天誅組志士の生存率は10%、「野根山事件」も天誅組同様まだまだマイナーである。幕末の土佐で如何に多くの若者の血が流されたことをか忘れずに来し方を振り返りたい。

高松 清之

ここは館長の部屋

「かいつり」に想う

グランドオーブンのカウントダウンが始まった。来春以降の特別展や企画展の具体的な計画づくりも本格化し、何かと慌ただしさが増す日々を迎えている。

こうした中で、新旧両館での様々な展示の一つとして、入館者の方々が最初に目にすることとなるシアターコーナーのガイダンス映像の制作が進められているが、この映像には、龍馬が生まれ、育ってきたふるさと、風土や文化を紹介するパートがあり、日曜日やよき祭りなどとともに、江戸時代に行われていた伝統行事である「かいつり」がとりあげられている。

現代の私たちにとっては馴染みのないものではあるが、幕末の土佐では一般的であったと見え、この行事が龍馬の手紙の中にも出てくる。

慶応元年9月9日付けで龍馬は2通の手紙を認めている。一通は、乙女姉さんと姪のおやべに宛てたもので、妻となるお龍さんを紹介するとともに、彼女の花嫁修業（？）のために小笠原流の礼儀の本や和歌の本、そして、乙女さんの帯や着物などを京都に送つてほしいとおねだりする有名な長文の手紙。そしてもう一通は、幼馴染であり同志でもある池内蔵太の勇猛果敢な戦いぶりや健在であることを彼の家族に知らせたものであるが、その中に土佐を懐かしみ、思い出しながら「かいつり」の面の如くおかしく候や」と白粉をつけた女性について語る件がある。

「かいつり」は、左義長（どんと焼き）などとともに、その年の豊作祈願や悪霊払いの意味合いを持つものとして小正月に行われる行事のひとつ。子供や若者たちが、色々なお面を付けて家々を訪ねて餅や菓子などを貰って廻るもので、訪問を受けても贈り物をしない家に対しては、悪評をたたり、悪戯したりといった風習があったようである。この行事からは、最近日本でも様々なイベントが行われるようになってきたハロウィンで、魔女やお化けに変装した子どもたちが「Trick or Treat（悪戯か御馳走か）」と唱えながら家々を巡っていく習わしを連想される読者も少なくないと思われる。



『土佐年中行事図絵』より
「正月十四日、貝釣」（高知県立図書館蔵）

今年も10月31日のハロウィンが近づいている。記念館の再スタートまで残すところ172日に当たる日である。

サン・フェリペ号の悲劇



土佐史談会会長
現代龍馬学会理事
宅間 一之

1597年2月5日(慶長元年12月19日)長崎西坂の丘、十字架に掛けられた26人は両脇を槍で突かれ殉教した。濃霧の朝だったという。秀吉の命で大阪・京都の外国人宣教師・修道士6人、日本人修道士や信者18人は捕縛され、京都大坂で引き回され、厳寒のなか徒歩で長崎までの道行であった。途中捕縛の2名も殉教の列に加わっていた。

史書に記録される「豊臣秀吉のイスパニア(スペイン)船に対する船貨没収事件」、いわゆるサン・フェリペ号事件は浦戸での出来事である。1000屯級の大船は、フライピンからメキシコへの途中、暴風雨のため破損し浦戸に寄港した。長宗我部元親は安全を保障したが、船は浦戸湾内の港に入ろうとして座礁した。元親は秀吉に積荷の報告とフランシスコ会士のいることを報告した。検使として増田長盛が派遣され船貨没収の実務に当たった。秀吉が没収させた荷物は、上等の絹子5反・唐木綿26反・金襴緞子5万反・白糸(絹)16万斤・黄金・麝香鹿と生きたサルにオウム、そして船員が持っていた貨幣という。

漂流船の貨物没収は、当時の国内では当たり前前の事だったと言うが、この事件が26聖人殉教にまで発展したのは、船長(水先案内人説もある)の、スペインは宣教師(パアドレ)を、領土征服の手先としているという植民地侵略と結びつく疑われる失言からである。増田長盛からの報告に秀吉は怒り、日本在住のパアドレらを極刑に処し、



浦戸湾風景

京阪地方での大規模なキリシタン狩りを行いキリスト教弾圧の口実とした。

浦戸湾口は狭隘で岩礁が多くサン・フェリペ号座礁の位置の検証は困難であるが、この事件が単なる漂着事件にとどまらず、キリスト教弾圧、ひいては徳川幕府の鎖国政策へと発展する端緒となる重大事件となった。

寒い北風吹く浦戸湾内で展開された歴史のひとつ、そのなり行きを周辺の人々も気遣いながら眺めたことであろう。湖水のように静かな浦戸湾は、今も歴史の風景をそのままに伝えている。

龍馬の精神が息づく「豪気節歌碑」

「豪気節歌碑」

桂浜、坂本龍馬像背後の樹木の中に、全長3.5m程の「豪気節歌碑」がどっしりと建っている。碑の表側には、高校生2人の対照的な姿が刻まれている。1人は正面向きで腕を組み、肩にマントを羽織り、毅然としている。もう1人は横を向き、高下駄をはき背中を丸めて座っている。これは高知の画家大野龍夫の作品で、黒マントと高下駄はロマンと思索の象徴らしい。碑の右上には、豪気節9番の歌詞「この浜よする大涛はカリフォルニアの岸を打つ」とあり、碑の裏側には1番から10番までの歌詞が刻まれている。



「豪気節歌碑」は昭和42年11月に旧制高知高校創立45周年を記念して、高知高校同窓会により桂浜に建てられた。旧制高知高校は大正12年に開校され、後に高知大学文学部へと受け継がれた。

「豪気節」は旧制高知高校の第1回卒業生、余田弦彦によって作詞された寮歌であり、高知に多くの逸話と寮歌を残した彼の歌の中で一番愛唱されたそうだ。

高知高校生は、中秋の名月には桂浜で観月会を行い、焚火のまわりに肩を組んで豪気節を歌い、樽酒を汲みかわした。この観月会は学生たちの血を湧かせ、生涯の思い出と

さとして桂浜を選びました」という答えだった。

歌碑の説明には「カルフォルニアの岸」は、当時としては極めて壮大な、青年の気宇を表すと書かれている。これはまさに坂本龍馬と重なるものがある。また、当時「坂本龍馬」と呼び捨てにするのと「坂本先生といえ」と言われたという話もある。「豪気」という言葉のごとく、尊敬と憧れの人物坂本龍馬の精神は、高知高校生の心の中にしっかりと息づいており、歌碑の前に立つと学生たちの歌声が聞こえてくるような気がした。

中村 昌代

なったそうである。

また、高知大学同窓会事務局南溟会に「豪気節歌碑」をなぜ桂浜に建てたのかお伺いしたところ、OBの方から「学生時代に遊びに行ったり、集会をしたり、パーティーをしたりした親しみのある場所、心ふる

飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう!

視聴方法は簡単!



- ① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード
- ② アプリを起動しマークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。
※本コンテンツは2017年12月31日まで閲覧可能です。

出口調査に見る 龍馬記念館入館者の傾向

見えてきた グランドオープンに向けての課題

当館では、出口スペースに47都道府県・外国の欄を設けた表を貼り、入館者の皆様にどちらから来られたかをカラーシールを貼って教えていただくというコーナーを設置していた。回答率は入館者の約3割で、子どもだけでなく大人も楽しんで参加されている様子が見られた。

調査を開始した平成20年から9年間のデータを分析し、そこから見えてくる今後の課題を探る。

ランキング上位、下位は

調査開始以来、毎年、大阪・兵庫が常に1位・2位を競い、3位以下を大きく引き離す結果となっている。その一方で東北地方からの入館者は大変少ない。遠さゆえかと思いきや、北海道は18位と比較的上位にランキングしている。距離の問題ではないようだ。北海道は龍馬が開拓を夢見、坂本家の子孫が渡った龍馬ゆかりの地である。

ところが、同じくゆかりのある長崎、鹿児島は30位以下となっている。

最近の傾向は

最近の傾向として顕著に現れているのが、外国からの入館者の増加である。平成22年度には全体の42位だったのが、26年度には24位という結果がでている。

特に、大河ドラマ『龍馬伝』が放送された台湾からの団体旅行者が多く、日本語に堪能な添乗員さんが龍馬について熱心に解説をする姿も見られた。

高知県内からの入館者は

外国からの入館者が急増する一方で、調査開始当初から変わらないのが高知県内からの入館者の割合である。地元であるにも関わらず全体の5%以下と大変少なく、これが龍馬記念館の長年の課題となっている。平成20年度以前は、企画展毎

都道府県別入館者ランキング (平成20～28年 総合順位)

順位	都道府県	総数
1	兵庫	44,780
2	大阪	44,658
3	広島	31,215
4	東京	30,423
5	岡山	25,322
6	愛知	25,274
7	愛媛	24,191
8	神奈川	23,699
9	高知	22,406
10	香川	19,589

44	山梨	2,551
45	山形	2,507
46	岩手	2,328
47	秋田	2,144
48	青森	2,120

(回答総数 535,325)



完成間近の新館

に出口調査を行っており、18年度開催の「坂本直行展」では高知県内からの入館者が増加したという実績もあることから、地元高知の方に興味を持ってもらえる展示を企画することで県内からの入館者増加も期待できそうです。

今後の課題

グランドオープン後は一時的に入館者が増加することが予想されるが、継続して来館していただくためには、来館者の満足度を高めることが重要となってくる。

入館者の少ない地域への対策としては、龍馬にゆかりのある長崎や鹿児島、高知県東部、西部などの博物館との連携を図ったり、それらの地域の方に興味を持っていただけるような企画展を開催することで、入館者増につながるのではないだろうか。

また、急増する外国からの入館者へのサービスとして、展示解説や館内サインの多言語化にも力を入れていかなければならない。

展示内容などのハード面と併せてソフト面を充実させることも大切だ。お客様を笑顔でお迎えすることから始まり、様々な面で心配りを忘れず、最後まで気持ちよく過ごしていただけるよう心を込めた接客でもてなすることによって、「来てよかった」「また来たい」と思っていただけ館を目指していきたい。

尾崎 由紀

グランドオープンに期待する②

第2回は記念館開館20周年を記念して建てた「シエイクハンド龍馬像」の制作者代表吉岡郷継さんと兵庫龍馬会会長・劇団志士座乙女座主宰の楠本剛さんの声をお届けします。

「龍馬ファンの拠点から、龍馬研究の拠点へ」



龍馬像ハンドシェイク制作者代表 吉岡 郷継さん

龍馬ファンの拠点として発展してきた記念館でしたが、新館に博物館施設としての展示会場、収蔵施設が備わると、龍馬関連の貴重な資料を秘蔵してきた人からの寄託・寄贈の申し入れが増えることでしょう。龍馬研究の拠点としても発展することを期待しています。(談)

「どんどん変わっていく記念館」



兵庫龍馬会会長 劇団志士座乙女座主宰 楠本 剛さん

どんどん変わっていくのが坂本龍馬記念館らしさだと思います。なのでリニューアル後、一年たったらまた新しい何かが出てくる…。そんな「期待を超えた、さらに上の期待」に込める「記念館になっているのが楽しみです。(談)

中村 昌代



拜啓 龍馬殿

383通

平成29年6月21日~9月20日

「再会」
高知にも会いに行きましたが、江戸でもお会いできるとも嬉しいです。龍馬さんの生き方そのものが、もの凄く格好良く、考え方も歴史上一番お会いしたい人物です。

(6月1日 東京 H 46歳 女性)

「あなたのとりに」
あなたの生き様、あなたの強い志、心からあこがれと尊敬いたします。私は28歳ですが、小学生の頃からあなたという人間のとりこになり、あなたのようない志を持った人間になりたいと今日まで生きてきました。それはこれから変わらないことであり、ずっとあなたの背中を追いかけて生きていきます。志を胸に生きていきます。生前のあなたに会いたかったです。

(6月1日 千葉 S・Y 28歳 男性)

「大好き」
龍馬が大好きで大好きでたまりません。これからは私たちが英雄でいてください。大好きな龍馬！

(6月2日 新潟 T・N 30歳 女性)

「28歳」
昨年やっと土佐へ足を運ぶことができました。日本の歴史を好きになり、一人旅ができるようになってから様々な場所を訪れました。その中でも龍馬殿の生誕の地や桂浜をこの目で見たことは私の人生に大きな影響を与えてくれました。龍馬殿が脱藩した28歳の年齢と同じです。あなたのような大きなことは成し遂げられなかつたかもしれませんが、自分の意思を持ち、これからは生きていこうと思っています。同じ日本という国へ生まれてくれたことを誇りに思います。シエイクハンド龍馬像と二度目の握手させていただきましたよ！

(6月2日 宮城 M・A 28歳 女性)

「人生大転換」
坂本龍馬と同じく誕生日の8月6日、高校3年生のとき自殺を計画しましたが、実行1秒前に一人の友人に助けられました。月日が流れ、ある年の11月16日、人生が大転換しました。

(6月8日 19歳 女性)

「高知大好き」
龍馬さんみたくなりたいならば大人になりたいです。高知が大好きです。お母さんは高知しゅっしんです。

(6月2日 神奈川 S・T 9歳 男子)

「夢に向かって」
志高く、周りの目を気にせず大きな目標を持って前に突き進む姿がとても印象に残りました。私もこれから留学に行きますが、そのような気持ちを忘れず、夢に向かって精進したいと思います。

(6月3日 東京 Y・H 18歳 女性)

「だれもしていないことを」
言葉使いが面白く、表現も面白いです。木刀はどのくらい重いのとお母さんが言っていたけど、どうもやってみてほしいです。直行さんがいた絵がすごくていつも使わせてくれてありがとうございます。ソフトバンクにも龍馬さんひきかえたいの口が使われていて、今も龍馬さんの想いが引きつがれていると知って、わたしもなにか、だれもしたことないことをしてみたいと思います。

(6月4日 東京 Y・A 10歳 女子)

「胸が熱くなった」
龍馬殿 初めまして。大学一年の者です。龍馬先生は19歳の時に初めて土佐から出たということで、丁度今の自分と同じ頃から飛躍したのだと知り、胸が熱くなりました。龍馬先生は40までは頑張りとおっしゃっていたので、33歳というまだ若いときに亡くなってしまったことが心残りですが、今の世を見守ってくれていることかと思えます。龍馬先生が望んだ世の中になってほしいです。これからもあなたを見守っています。

(6月8日 19歳 女性)

「龍馬の姿」
今回は百段階段での展示があるのと、展示品の数々を見させて頂きました。幕末の中での龍馬の生きた姿が見えたように気がしました。

(6月9日 東京 T・K 49歳 男性)

「神の思惑」
手紙をいろいろ読んで龍馬の素晴らしいことに感動しました。飾り気のない素直なキャラ、そして充分なやめつけ、優しい心根、何よりも確固たる日本への思。政治家のあるべき信念だと思えます。こんな志の政治家が沢山今の日本にもいたらと思えてなりません。龍馬がどんな風になっていたのか、その死には何か計り知れない神の思わくがあるのか...

(6月9日 三重 S・Y 77歳 女性)

「ガッソ」
「龍馬がゆく」を読み「龍馬伝」を見て、龍馬の実像はどうだろうとつくづくの書物を読みました。また昨年は長崎を、今年は高知を訪れました。さらに今年は江戸博 雅叙園の貴兄に関する展示を見ました。貴兄の大きな志、また新しい価値観で日本を変えようとするま、いつもガッツとなぐられるような気さえします。現在の日本、世界のあやしげな雲行きに貴兄のようなヒーローが今一度欲しいと思うこの頃です。

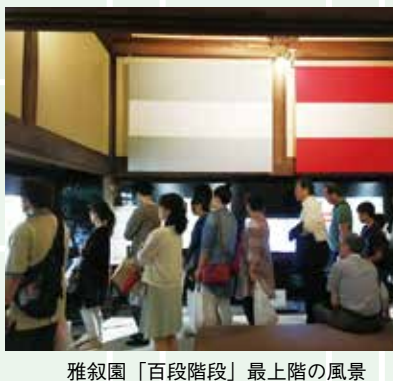
(6月9日 神奈川 S・N 73歳 男性)

「政治家さんむ」
龍馬さんのことはよく知り知っていましたが、大変良く説明されていて分かりやすかったです。今日あるのもこういう人たちの苦労があったからこそと思っています。今の人達とはちよつと違うなかと。見習ってほしい所が沢山あります。政治家さんむ。

(6月9日 東京 Y・I 75歳 女性)

「世界の龍馬」
日本の龍馬、アメリカの龍馬、中国の龍馬、世界の龍馬が現れる事を祈っています。人類があらゆる文化、それぞれが出来る範囲で立ち上がって、あとで後悔しないように、展示物やビデオは最高。わかりやすい。東京で開催されているチャンスを都会人は見て立ち上がってほしい。

(6月9日 愛媛 I・M 男性)



雅叙園「百段階段」最上階の風景

「伝説の生き様」
150年前の激動の時代に、今でも伝説の生き様を見せてくれた龍馬殿。誰も真似できないが、誰もが愛しあがれるその生き様は、これから30年、300年の日本、そして世界を、希望と笑顔の人々によって切り開かれるでしょう。その「志」を胸に。

(6月9日 埼玉 H・M 40歳 男性)

「1日じゃ足りない」
はじめて知ることが多く、びっくりの連続でした。一日では足りません。

(6月10日 埼玉 M・N 53歳 女性)

「女版龍馬」
私は自動車会社に勤務しています。自動車業界は荒波にもたっていますが、女版龍馬になるべく自分なりに頑張ります！

(6月10日 東京 N・N 44歳 女性)

「梅太郎」
ぼくの名前は梅太郎です。りょうまさんのようにつよくやさしい人になります。

(6月10日 千葉 U・S 8歳 男子)

※梅太郎は坂本龍馬の愛名です

「土佐龍馬会」
私は高知県土佐市出身です。おまんのことは忘れたい。職場でも土佐龍馬会を立ち上げワイワイ、ガヤガヤやりゆ。

(6月10日 東京 C・H 64歳 男性)

「龍馬の人柄」
龍馬さんの大ファンです。若いのにすごいと思えました。龍馬さんみたいな人なかなかないませんね。いたら結婚したかったです。温厚で人あたりのいいところか、人を見下したりしないところもいいです。剣が上手なのに自慢しないところが格好いいです。女性に大変な魅力を感じます。

(6月10日 東京 K・M 51歳 女性)

「サカモトリヨウコ」
私は旧姓がサカモトで、父が坂本龍馬のファンだった為「リョウコ」という名をつけられました。生まれた時の写真が収められているアルバムの名前の由来にも、坂本龍馬の妻と書いてあります。そのせいで、坂本龍馬には思いがけず特別に愛を持っていて。龍馬さんの強い志は本当に素晴らしいです。龍馬殿の生きた時代を振り返ることに、ただただ感動を受けたいです。

(6月10日 東京 R・N 48歳 女性)

「脱藩しました」
貴殿の生き方に影響され、私も会社という組織より脱藩しました。今は苦しいですが、私も貴殿のような大きな事を成し遂げたいと思っています。

(6月11日 神奈川 Y・O 43歳 男性)

「青年の志」
本来、高知まで行かなくては見れない会えない貴重な足跡を、私なりに身近に感じつつ感動一杯です。ごく平凡な一青年の志に私も負けず、自身の使命を果たしていきます！

(6月12日 東京 H・I 47歳 男性)

「言葉の人」
龍馬さんは、ことばの人だと思いました。手紙を書く相手（特にご家族と）がわかってきた。私がかもたらした手紙のよさに、わくわくしながら読みました。願わくは、もう少し長生きして私小説と書いてほしい。龍馬の本、読んでみたかったな。ともあれ手紙をどうもありがとう。

(6月13日 東京 R・H 女性)

「手紙を書く」
あなたのお手紙があんなにも長く、わかりやすく、楽しいものだったなんてすごいです。これから私も手紙を書くことに強く思いました。今日からはじめて書いてみます。せっせと生きていて日本の為にも動いていてほしいなと思つてます。又、会えるといいです。

(6月14日 東京 E・S 62歳 女性)

「見直しました」
ますます好きになりました。孫氏のこともちよつと見直しました。日本ハムを応援しているの、ソフトバンクを力タキマに思つても本当に龍馬殿はスパーキ一男の中の男。絶対に政治家にしたかったと思う。残念で仕方ない。

(6月14日 神奈川 M・I 70歳 女性)

かっただのですか？つまのことはどう思っていたのですか？どうしてご女にそんなに手がみをだしていたのですか？お龍さんはどうして手がみをどんとんやしていつたかわかりますか？ほくも龍馬さんみたいに日本をかえたいです（ころされたくないけど）。龍馬さんはなぜそんなにわかつたにでたのですか？中岡さんのことはどう思われていたのですか？ほくは龍馬さんにしつ問したいことがいっぱいあります。

（6月15日）神奈川 N・S 10歳 男子



「今からでも」

龍馬さん、育児中の私にとってはとても勇気づけられました。双子と長女のお世話にあげくれ、小さい世界でしたが、今からでもおそくはないと思います、また頑張ります。今日はありがたうございました。

（6月15日）東京 S・K 37歳 女性



「正倒、圧巻」

SNSで今回の県外巡回展のことを知り伺いました。本物の書簡や刀剣を目にするのは初めてのことなので、ただただ圧倒されることばかりでした。教科書の人をとて身近に感じることができて、とても貴重な経験をさせてもらいました。特に北辰一刀流監修の再現上映には息を飲みました。抜かれることになった陸奥守吉行、傍にいたのにもできなかった中岡慎太郎、ほんの数秒の間に多くの感情が生まれ消えた瞬間を再現したあの上映本当に圧巻でした。

（6月15日）江戸付近 R 21歳 女性



「一事を成す」

雅叙園における展示を拝見いたしました。若い頃、小山ゆう氏の「おーい！龍馬」を読み、それ以来貴殿に魅了された一人です。年を重ね、様々な書簡や役職もいたたくことがありましたが、その度に、そうだった名前よりも、いかに事を成したか、を考えています。人に認められるより、それに見合った、又正しい事をやり遂げられたかどうかが大切であると強く思います。生まれたのは事を成す為であるとするならば、自分に課せられた事とは何か…。日々懸命に前に進んでゆこうと改めて思いました。また来週から貴殿に負けないように邁進いたします。

（6月17日）神奈川 K・T 48歳 男性



「ちようびテスト範囲」

実は薩長同盟あたりが中間テストの範囲だったのですが、今回、龍馬さんのおいたちをより詳しく知ることができて嬉しかったです。龍馬さんにならって来たことを、家族や友達にも話してみようと思います。日本史にもっと興味がありました。今日は「坂本龍馬展」とても楽しかったです。あひがとついでにまた来週も。

（6月17日）東京 A・M 16歳 女性



「新たな世界へ」

龍馬さんの故郷の高知を訪れて、約6年の月日が経ちました。その間、大切な出逢いや別れを経験し、僕は今

新たな世界へ飛び込みます。それは、龍馬さんのように「人と人をつなぐ仕事です。」「人と人の架け橋となり、みんなが笑って暮らせる世の中を目指し励んでいきます。どうか龍馬さん、日本人がいづまでも、これからも笑って暮らして、世界の人々と共に素晴らしい。現在と未来を歩めるように見守っていてください。さあ、熱い熱い人生を歩ませよう！

（6月17日）埼玉 H・I 36歳 男性



「決意表明」

私は貴方が生まれた町に生まれ、貴方が暮らした町に命を懸けて守った政府の末端で働き、貴方が命を懸けて守った国のために尽くすことを決めた者です。貴方はあまりにも遠くにいるので、私が誇りをもつて報告できるものは何一つありませんが、せめて「また洗濯が必要だ」と笑われないような仕事をしたいと思う次第でございます。どうぞ、ご賞になっていてくださいませ。

（6月17日）東京 M・K 26歳 女性



「夫と共に」

以前、夫が龍馬の写真をずっと手帳に持って大事にしておりまして、本当に若い頃が好きで、私たちの新婚旅行は九州と、若い思いがありました。亡くなった後にこんな素敵な娘が、あり、本当は二人で見に来たかったですね。夫の思いを胸に見せていただきました。男なら龍馬は大好きですね。自分の信念をずっと一筋に生きた龍馬。長生きして欲しかったですね。夫の思いが少し理解できたように思います。ありがたうございませ。

（6月18日）東京 F・H 65歳 女性



「心を奪われた」

私は小学生的の教科書であなたと初めて出会い、写真の中であなたの堂々とした姿に心を奪われました。教科書の説明では飽き足らず、学校の図書室、テレビ番組、インターネット、書籍など、関係するもの目に入ったものは全て確認したことを今でもよく覚えております。調べれば調べるほど、その生涯の格好良さに惹かれています。それ以来、ずっとあなたのことを尊敬しています。将来は、私にとつてのあなたのように、誰かの心へ何か大きなものを与えられる人間になりたい。立派になりたいと思っております。どうかそんな様子を見ていてくれたら幸いです。

（6月18日）神奈川 Y・S 17歳 女性



「友達に教える」

僕は龍馬のヒストルや笛（ホイッスル）を見て、歴史が好きにならずとも知らないことだらけでした。歴史が好きにならずとも知らないことだらけです。今回の「土佐から来たぜよ！坂本龍馬

展」のことは一生わすれませんが、もっと龍馬のことを知りたいです。

（6月20日）東京 K・O 10歳 男子



「清く正しく美しく」

100段までゆつくりと登って参りました。あらためて龍馬の生きざまに感動するとともに、これからの己の人生も清く正しく美しくと本の筋を通して生きたいと思えました。素晴らしい午後となりました。ありがたうございました。それから、右手のふところには何か持っていましたか？今までもずっと気になっております。教えていただけますか？海援隊の笛は見つけたいです。できました。次は高知へ追っかけていきたいです。

（6月20日）東京 T・K 70歳 女性



「龍馬像の貯金箱」

生まれは愛媛県新居浜市で、小六の修学旅行で初めて桂浜の龍馬像に出逢い、お土産の貯金箱をはたいて龍馬像を模した貯金箱を買って帰ったこと、今でも記憶に新しく映ります。太平洋の先を見つめる龍馬さんに憧れ、何度も桂浜を訪れ、口が奪れて月が出るまで一緒に海を眺めたりもしました。希望日本の志士として活動を始めた頃は龍馬さんに相談した事として。その時「世界は日本がリードするぞ」とお言葉をいただきました。今も「坂本龍馬になる！」と奮闘中です。

（6月20日）神奈川 T・M 45歳 男性



「ご先祖様に感謝」

会期ぎりぎり、来てよかった。我がルーツをたどれば、父は土佐から旭川に渡った屯田兵の末裔、母は紀州藩最後の江戸留守居役の三女、夫婦げんかの最後は「明治の貧乏絵描きの娘が」と北海道の山嶺が終わぬ。その子孫の私は、おかげで同郷龍馬の大ファンであり、3年に一回、愚作がき集めて個展を、ご先祖様に感謝せねば。高2の孫とは歴男同士、屋敷も忘れて楽しませていただきました。龍馬殿、いつまでも生き続けてください。

（6月20日）神奈川 K・W 76歳 男性



「手紙に見える人柄」

とても龍馬さんを早くに亡くしたことが惜しく思います。数々の手紙から見える文字の大きさや細やかさ、ご先祖様の愛情、お龍さんへの夢中が、よくよく伝わって来ます。とても大膽なお人柄の反面、目的には慎重であり、進める事への丁寧さがよく伺えました。もし龍馬さんが年を経ているなら、今の日本ももっと良いものになっていたらかもしれません。海援隊の考え方も当時ではとても新しいものだったのではないのでしょうか。最後に、こんなにも多くのものを大切にしてくださる、展示くださった学芸員の方、

（6月24日）埼玉 K・M 11歳 男子



「月琴の音色を」

血なまぐさい印象が強烈でしたが、書簡を見て親近感が湧きました。家族、同志に恵まれ大変幸せな人生を送った人なのだとわかりました。残されたお龍さんは気の毒です。月琴、一絃

高知の方に感謝申し上げます。

（6月21日）東京 M・H 26歳 女性



「たゆやかさ」

生まれて初めてあなたの文字を見ました。想像よりやさしく柔和な文章に感動しました。このたゆやかさがあるからこそ行動力だったんですね。本当にカンゲキです。なんだか心配な雲行きの「日本をどう見守って「カシ」をとってください！」あなたの力を永遠に…。

（6月22日）千葉 N・M 62歳 女性



「何もかも好き」

貴方の大らかさ、遠くを見るまなざし、明るさ、人なつこさ、そして決断力、行動力、そして人への優しさ、度量の大きさ、そして…、何もかも大好きです。実は21年前に亡くなった夫がよく似ているので。性格も、思いも、立ち姿も、一度貴方の生まれた高知を訪ねたいと思っています。

（6月22日）東京 H・K 65歳 男性



「いてもたっても」

こんにちは、龍馬さん。私は新撰組のファンなのですが、龍馬さんのも大好きです。日本人であつたのが、龍馬を嫌いな人はいないと思います。この度、東京へ巡回してきてくれたので、いてもたってもいられず見に来ました。いつか高知へ行って、龍馬さんに会いに行きたい。その日まで私も頑張つて仕事と家事を両立して、我成す事を立派に成し遂げたいと思います。それでは、いつか会いましょう。

（6月23日）39歳 女性



「油断しすぎです」

はじめまして。ほくは、暗殺されるかもしれないけど、近江屋に泊まっていた龍馬は勇気があつたと思えました。前に一度暗殺されたときがありましたね。そのときは、後に龍馬の妻となる人（名前忘れまし）なをの活やくにより、さつまはんにいけごむもてできてよかったです。頼りになる奥さんをもてよかったですね。それにしては、暗殺直前とつて刀を後ろに置いていたのですか？疑問です。確かに近江屋と土佐は近いのですが、前回のようにつまぐいくとは限りません。その点については油断しすぎだと思えます。

（6月24日）埼玉 K・M 11歳 男子



「手の大ささ」

最初の握手像で手が大きいと感じた。最上階にて、木刀を持った所、手が大きくなる理由が分かった。手は使う程に大きくなる。剣術の鍛錬を相当していたのだなと推察される。こんな達人でさ、油断は大敵であると感じた。

夢の音色がききたいです。

（6月24日）K・C 54歳 女性



「ミユニケーション術」

孫さんと龍馬がつながっているのを初めて知りました。孫さんの即断、常識にとらわれない生き方、考え方は龍馬の思想を大きく受けたのだなと感嘆しました。龍馬がもし暗殺されず、明治も生きていたなら、日本の歴史も大きく変わったろうにと思うと残念でなりません。敵を味方にする「ミユニケーション術」戦争せずに交渉する話術にとても興味を覚えます。私も常口頃この「ミユニケーション術」を大事に思っています。

（6月24日）東京 K・O 63歳 女性



「龍馬に問う」

今あなたが生きていたら今の日本を見てどう思うのでしょうか？洗濯必要ですよ？

（55歳）女性

*** 編集者より ***

休館中に開催した巡回展の東京会場では、25日間という短い期間ながら325通ものメッセージが寄せられ、龍馬への関心の高さを実感しました。3歳から86歳までの幅広い年代の方からメッセージをいただきましたが、なかでも10歳代以下の若い世代からの声がたくさん寄せられていたのが印象的でした。お一人お一人の熱い思いにこちらも胸が熱くなりました。広島会場（7/14～9/10）でお寄せいただいたメッセージは次号でご紹介します。尾崎 由紀

■ 出前授業 ～夏休み中は毎日、児童クラブを訪問～



新館の建築工事等が急ピッチで進む中、休館中の活動として高知県内の小中学校を訪問し、紙芝居を行う出前授業が5月からスタートした。夏休みには高知県立文学館の活動「おはなしキャラバン」に同行させていただき、夏休み児童クラブを訪問させていただいた。学校に到着し教室に入ると、出迎えてくれたのは真っ黒に日焼けした元気いっぱいの子どもたち。新しい訪問者の私たちにも興味津々だ。



「坂本龍馬さんを知っちゃう？ 龍馬記念館には来たことある？」の問いかけには大きな声で手を高く上げて応えてくれた。紙芝居は龍馬が生まれ、その後成し遂げた重要な事柄、最期までを描いたもので、どの子供たちもとても熱心に、時には身を乗りだしながら目と耳を傾けてくれた。途中で入る龍馬クイズが一番の盛り上がりどころ。我こそ正解！と、ここでは歓声が響く。最後に「龍馬記念館に来たいと思ってくれたかな？」という問いかけには、ほぼ全員一致でOKサイン！

児童クラブは1年から3年生までが多く、歴史の勉強はまだこれからだが「インターネット」で勉強をしたり、本を読んだり、龍馬に詳しい子どもがたくさんいて頼もしい。龍馬のことをまだ知らない小さな子や、興味がなかった子どもたちの心にも龍馬のことが少しでも残り、学校の授業で思い出してもらえたらいいなと思う。龍馬の思いを受け継ぎ、未来へ繋げてくれる子どもたちのためにこれからもこの活動を続けていきたい。

宮崎 圭子・西本 有里

第5回夏休み子ども・龍馬フォーラム

「坂本龍馬暗殺150年！歴史新聞づくりに挑戦！」

今回で5回目の「夏休み子ども・龍馬フォーラム」は昨年までと趣向をかえ、今年が「坂本龍馬暗殺150年」になることから、坂本龍馬が暗殺された事件を新聞記事で紹介する…と「歴史新聞づくりに挑戦！」というワークショップを行いました。



「龍馬暗殺」-同志や家族からは悲しくつらい出来事も、龍馬の行動をよく思わない人は何も感じない…立場によって反応は様々です。それ故、事実を客観的に考えるためには、色々な立場の人からの話や情報を分析する力が必要でしょう。その力をもとに自ら考え、行動していくことが、やがては「日本の洗濯」につながるのではないかと考え、こうした力を高知の子どもたちに育んでもらいたい、という思いで「龍馬暗殺」をテーマに「新聞づくり」という切り口で取り組みました。

さて、高知市を中心に集まった24名の子どもたち、多くは龍馬ファンや歴史好き、すでに色々調べてきている「豆記者」の姿もあります。まず、高知新聞NIE推進部のご協力をいただき、新聞記事の書き方のコツをお話いただき、その後、「京都奉行所」(実際は当館学芸員)から「昨夜、坂本龍馬氏が近江屋で何者かに殺害された」事件が発表されました。さあ、いよいよ新聞づくりに挑戦です。

後藤象二郎や海援隊士、見廻組や新選組、妻お龍や故郷の乙女姉さん…龍馬を取り巻く「関係者」になりきった当館学芸員に、豆記者たちが鋭い質問で取材をし、様々な角度から「坂本龍馬暗殺事件」を調べていきます。そうして聞き取ったり、調べたりした事柄を、自分なりにまとめて、みなそれぞれの新聞をつくりあげていきました。



ところで、豆記者の取材先となる「関係者」の反応、例えば「〇〇は、龍馬の死をどう思うか」という場合、〇〇の手紙や行動を手掛かりに、龍馬への評価や心理状態を推測し、その反応を学芸員たちで考えたのですが、これが意外と面白く、史料の「深読み」が歴史の面白さと改めて実感したことでした。

河村 章代

職員紹介

「龍馬との邂逅にあたって」



9月より坂本龍馬記念館に勤務いたします高山と申します。これまで、龍馬ゆかりの地でもある京都で18年間を過ごし、京都

の動きを中心とした幕末政治史について勉強してきました。坂本龍馬という日本史上の大人物と向き合えることを大変嬉しく思っています。グランドオープンを迎える記念館に、新たな風を吹き込む一助となるよう精一杯努力してまいります。よろしく願いいたします。

高山 嘉明

編集後記

仮事務所に移って半年が経った。

この夏焼けた太陽が照りつける中、建設工事が進んでいった。工事現場の苦勞はいかばかりか。目だけが白く見えるような警備員さんの日焼け顔が、行きかうトラックを追うように散水していた光景が遠く思える。

新館が見えてきた。覆われていたシートが外され、本館(既存館)にガラスの輝きが戻ってきた。

雲外蒼天。一年間近い工事を経て、本館と新館の上に秋のさわやかな青空が広がっている。

(ゆ)

館だより「飛騰」第103号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏
〒781-0262 高知市浦戸城山830-25「桂浜荘」内
発行日 2017(平成29)年10月1日 TEL (088)841-0001 FAX (088)841-0015
発行 公益財団法人高知県文化財団 http://www.ryoma-kinenkan.jp
高知県立坂本龍馬記念館 「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

2018年4月21日(土)
グランドオープン!

館だより「飛騰」は、郵送料のみのご負担でお届けいたします。購読希望の方は、120円切手をご希望回数(4回分まで)お送りください

私のテーマ

いろは丸事件の記録(3)



渋谷 雅之

思出之記

豊川渉による「いろは丸航海日記」関連の資料が世に出てから百年近くを経た平成の現代になって(1)で触れた「豊川渉の思出之記」という書物が刊行された。

豊川渉は日記を元にして、出生から昭和3年頃までの80年にわたる記録「思出之記」を書き残した。「思出之記」および「いろは丸航海日記」に収載された「いろは丸終始顛末」の内容の比較から、両者がそれぞれ独立に日記を元に執筆されたことがわかる。「思出之記」は、いろは丸関連の記録だけでなく、豊川渉が昭和5年に死亡する直前までの生涯の記録であり、圧倒的に長編である。

ともあれ、いろは丸沈没事件に関する2種類の記録が残されたことになり、それらの対比により検証の精密化が期待されるが、同じ日記を元としているため、後日談であることに変わりはない。

そして、筆者が「いろは丸始末」を執筆する準備を始めた平成27年の年末「思出之記」にまつわるビッグニュースが愛媛新聞に報じられた。「思出之記」に関連した原資料の他何枚かの写真を含む7点の資料が伊予市に寄贈されたという記事である。寄贈したのは豊川渉の曾孫(渉の3男・三郎の孫)にあたる津野宏氏である。筆者は平成28年4月、さっそくこれらの資料の閲覧を伊予市にお願いし、伊

予市教育委員会の水木崇行氏のお世話で調査することが出来た。

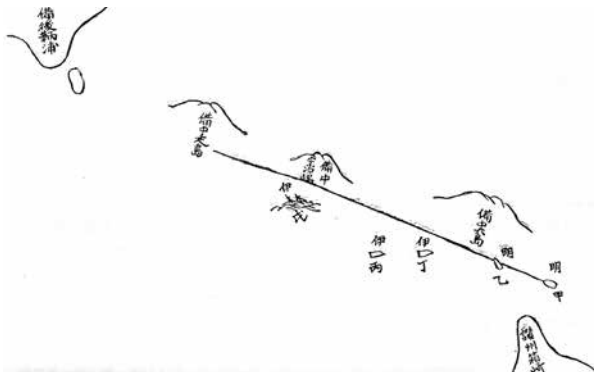
平成28年の4月に伊予市教育委員会を訪ね、資料を拝見し、まず驚いたのは「思出之記」が、望月宏氏の出版の際に使用された「活字化資料」ではなく、手書きのオリジナル文書(左写真)だったことである。これにより思出之記の、より精密な解析が可能になるのではないかと思われた。



来島海峡

思出之記の解説により、解明されていなかったいくつかの事実が明らかとなり、これまで途切れ途切れであったいろは丸沈没事件が初めて1つにつながった物語として語れるようになったと言える。もちろん、現時点での結論であり、将来さらなる資料の発見により修正・精密化が行われるだろうが、とりもなおさず、その出発点に立てたという思いが強い。新しい発見の1つは、いろは丸の航路に関するものである。

当時の航海法では蒸気船は夜間には左舷に紅灯、右舷に緑灯を掲げ、右側通行すべきとされており、明光丸は提出の航路図(左図)のように規則通り右旋回したが、いろは丸が東北方向に接近したために衝突したと主張した。これに対しいろは丸側は布刈瀬戸方向(鞆の浦のやや左)から東南に向けて航行していたので明光丸の右舷の緑灯が見えた、と反論したのである。



このように証言が食い違う場合、現代の紛争では第3者の判断が決め手になる。思出之記の中に、訓練のためいろは丸に乗っていた大洲藩長浜船手の証言が次のようにある。

来ル嶋瀬戸を越したる頃、遙かに舷灯と覚しき火を見た。前進する二従ひ汽船と知つて八左方々の方針を取りたるに……

この証言は、いろは丸が来島海峡(図では左下方向)を經由して備讃海峡に向かったことを意味しており、いろは丸側の証言を真つ向から否定する内容である。もしもこの証言が真実なら、いろは丸側の証言は偽証であり、いろは丸が東南方向に航行し、緑灯を見た、というのは極めて不自然な主張ということになる。この記録により、いろは丸側の非がほぼ確定したと云つて良いであろう。

その他いくつかの事実が明らかとなったが、一例として、いろは丸の購入代金の一部が大洲藩より支払われていた点を挙げておきたい。

大洲藩はボードインとの間に慶応2年から4年年賦で3万1千両(4万ドル)を支払う契約を結び、最初の6千2百両を支払っていた。このことは、慶応2年12月頃、船の代金を支払うため、豊川渉が父・覚十郎とともに長崎蘭館のボードインを訪ねたらしい記録が思出之記にあることからわかる。

いろは丸沈没事件の顛末を「いろは丸始末」という表題で出版できたのは豊川渉の思出之記のためである。

「りの人々の思い出」

龍馬研究家(龍馬の子孫) 土居 晴夫 さん

「ご無沙汰していました。やっとお目にかかれましたね。お会いしたかったです。」

「ああ、久しぶりですなあ。」

そんな会話が始まった土居晴夫さんとの面談。場所は名古屋近郊の施設。大正12(1923)年生まれ土居さんは94歳になられ、今は長女・眞理子さんの住む地域で暮らしている。お元気である。

ベッドからムクツと起き上がった土居さんは、待ち人が来るまでと、真剣に本を読んでおられた。よく見れば、ご自身の著書『坂本龍馬とその一族』である。おもむろに出てくる話題は龍馬の系譜。飽くことなき探求心、いや、学究心に衰えはない。まなざしに柔らかさが入り、いっそうの説得力があった。

限られた時間の中でのインタビューは聞きたいことがたくさんある反面、懐かしい話題も錯綜し、短い時間がいっそう短く感じられた。高松清之館長も同席しており、土居さんと固く握手を交わした。

系譜の記憶は鮮明に

—— 本当にお久しぶりです。かれこれ7、8年ぶりかもしれません。お元氣そうで何よりです。

大きな手術もしましたが、目が覚めたら生きとった。というように、おかげさまで命拾いもして、こうして暮らしていますわ。

私の晴夫という名前は、数え年92歳まで生きた弘松宣晴という曾祖父から「晴」という字をもらいました。長命であるようにということでした。うな。その妻・茂さんも94歳と長生きをしました。

—— 茂さんは、龍馬の姉・千鶴の娘、つまり龍馬の姪ですね。養子縁組など複雑な流

れはありますが、土居さんにとっては義理の曾祖母と言えます。いきなり龍馬の血筋の人たちの話になりましたね。

私は土居に生まれましたが、私の父・勝清は坂本直寛(茂の弟で龍馬の甥、自由民権家)の次男で、坂本から土居家に養子に入っています。

土居は土佐市高岡町出間の家で、勝清の養父・磯之助は、のちに妻・熊代の実家である弘松家を継ぐという、ややこしい間柄です。長男の磯之助が弘松家の家督を継いだことで、土居家の墓は私が整備、再建しました。が、なかなか苦勞しましたよ。

坂本直寛の子どもたち 直道と勝清

—— 土居さんは坂本一族の墓地(高知市丹中山)の整備についても苦勞され、おかげで今では高知市の史跡となりました。

土居家の話は興味深いですね。土居さんだからこそ聞くことのできる明治から昭和時代の坂本家や弘松家、土居家の話は大変貴重です。



父の勝清は中学校3年生のとき、養父である土居磯之助から家督を譲られました。勝清の兄はのちに坂本龍馬家を継ぐ坂本直道。直寛の長男です。

その坂本のおじさんが、(満鉄ヨーロッパ所長を経て、1940年に日本に引き揚げてのち)田園調布にいる頃、訪ねたことがあります。

「おお、勝ちゃん(勝清)のせがれか。入れ。入れ」と喜んでくれました。

この坂本の伯父は立派な人です。まさに「武士」でした。食道ガンが見つかって手術しましたが、術後目が覚めたら出血。回復することなく亡くなりました。

—— 私も坂本直道さんは大変尊敬する人です。

昭和8(1933)年、日本が国際連盟を脱退して国際社会から孤立したとき、唯一ヨーロッパ社会で日本理解のために動いた人ですね。

しかし、子どもの頃、高知から北海道に渡ってから、継母の鹿さんとうま

くいかなかった。小学校の時分からタバコを吸うなどして手に負えなかったとも聞きます。

だからでしょうね。直道は鹿から、冬に真っ裸にされて手をくくって井戸につるされたなんて話も聞きました。鹿が来たときおじさんは5、6歳で、もう分別がついていたので反抗した。

しかし、私の父である弟の勝清はまだ小さかったので、鹿になつき、鹿もかわいがったようです。なにしろ勝清は、生後8か月で実母を亡くしていますからね。鹿は勝清を歯医者にすると言っていたようです。結局、歯医者にはならなかったですがねえ。

—— 初めて聞くエピソードです。高知から厳しい寒さのある北海道へ渡った子どもたちの苦勞も感じます。



話題人 インタビュー

「坂本家ゆか」 ～龍馬没後150年に聞く



晴夫さんのお祖父さんとお祖母さん

—— 土居さんのお父さんである勝清さんは8歳のとき、坂本家から土居家の養子として高知にいられた。これもまた大変なことですね。勝清さんから見れば、養母の熊代さんは、従姉。義父・磯之助さんは旧制中学校の理科の先生ですね。土居家は磯之助さんの転勤で、宇和島、広島と移っていきます。

そうですね。

私は中学校3年のときに、高知に帰った磯之助じいさんの家にしばらくいたことがあります。頑固な人でね。物は言わん。冗談なんてとんでもない生活態度にも厳しくて、部屋に呼ばれて怒られることもあった。家にもいって窮屈なので、図書館に行くといって映画館に行ったりしていましたよ(笑)。

磯之助は菊づくりにも熱心で、支柱づくりなんか手伝わされたねえ。もう嫌になって早めに神戸の実家に帰りましたわ。

そういえば、私がまだ小学校のころ、父に連れられて広島鉄砲町の家に、熊代ばあさんの病氣見舞いに行ったことがあります。この熊代ばあさん

も厳しい人でしたな。あのとき、玄關脇に隠居所がありましたね。「その部屋に入ったらいかん」と言われていましたから、入らなかつた。後で思えば、その部屋にいたのは晩年の茂ばあさんでした。この茂さんという人は、器用な人でね。人形作りも上手だったようです。

私が自分の先祖に関心ができて、龍馬をはじめとした系譜を調べ始めたのはまだ後のことです。今思えば、あのときもつと見たり聞いたりしておくんやつたと思うことがたくさんありますわ。

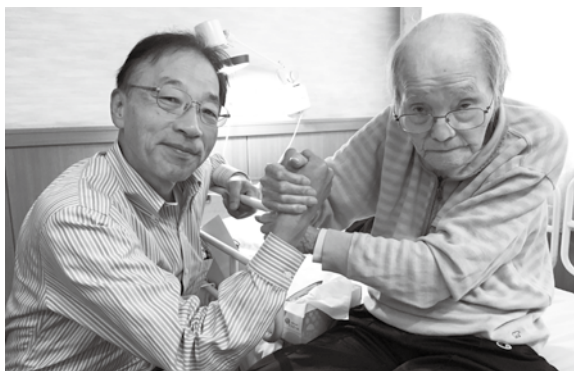
—— 鳥肌が立つようなお話です。磯之助さんが私立広島女学校(現・広島女学院高校)の教員時代のことですね。磯之助さんの義母・茂さんは、龍馬の姉・千鶴の長女。土居さんからいうと曾祖母(ひいばあ)さん。

写真では茂さんをたくさん拝見してきましたが、そういうたお話を人柄が香り立ちます。熱心なクリスチャンで、晩年まで聖書を手放さなかつた。また、千鶴さんにもよく似ていたという話も残っています。

龍馬没後150年に聞く

—— さて、土居さんにぜひお聞きしたい。今年が龍馬没後150年のとき。ご子孫としてどんなお気持ちですか。

龍馬はね。生きとつたらろくなことせんやろね。それでも面白い男ですわ。いまだに暗殺犯



人は特定できませんが、私は見回り組がやったと思っております。私には、坂本家と高松家、両方の血が混じっています。私自身は、旅行や歌舞伎見物が好きで、国内外をあちこちしました。神戸市職員として30年働きました。その途中から自分の先祖である人たちの系譜研究に入ってきました。

私は神戸で生まれ育ちました。毎年高知へ行って安田町(高松家)、田野町(弘松家)、丹中山(坂本家)、潮江山(山本家、鎌田家)など、先祖の関係した墓のお参りをしました。土居家(土佐市高岡町)の墓はもろんです。今はなかなか行けません。一族の墓は気になります。

—— 龍馬一族の検証は大変なご苦労があったと思います。だからこそ後世に残る系譜研究となつたのです。最後に、土居さんにとって一番大きな仕事だったものは何ですか。

祖父・直寛の伝記を書いたことです。直寛の残した文語文を口語訳したことです。祖父は59歳で亡くなった。もうちょっと生きとつたら、長生きしてくれているらよかつたのになあと、思います。

土居晴夫(い・はるお)

龍馬研究者
坂本龍馬及び坂本家系譜研究の第一人者
龍馬の甥・坂本直寛の孫
1923年神戸市生まれ
報徳商業学校卒業、元神戸市職員、元神戸国際大学講師。
著書・編著…『坂本家系考』『坂本龍馬とその一族』『坂本龍馬の系譜』『龍馬の甥 坂本直寛の生涯』『坂本直寛著作集上・中・下』『坂本直寛自伝、共著』『神戸外国人居留地』『兵庫・歴史と文化』ほか多数。



前田 由紀枝

インタビュー
(まえだ ゆきえ)
現代龍馬学会理事
高知県立坂本龍馬
記念館学芸課長

「→矢印の研究←」

宮川 禎一

矢印のはなしである。矢印とは「→」「←」のようなもので、現代社会では数多く存在し、便利で有効だ。ところがこの矢印にも歴史があり、研究する意味があるとされる。

戦国時代の様子を記述したとき「武功夜話」という古文書が疑わしい証拠として砦の図面に矢印→が描かれ、軍兵の進行方向を表している状況を検証して「江戸初期に描かれたものではない」という偽書論を読みながら、そういえばそうだと思う、坂本龍馬の「霧島山登山図」(慶応2年12月4日、乙女宛)を見れば、○に→をつけて「この穴は火山のあとなり」などと記していることから、やはり江戸時代には「→」のような矢印は存在しなかったのだとちよつと思つていた。現代の矢印は明治時代半ば以降の西洋的なものであり、方向性や運動性、注意点を表すようになったらしい。「→」を意味ある記号として認識する「文化」がなければ、存在しても意味がないのである。

ところがごく最近、坂本龍馬の『長幕海戦図』(慶応2年12月4日、坂本権平・家族一同宛、坂本家蔵・京博寄託品)をそんな目で見ていたら驚いた。龍馬の乗る「桜島」(ユニオン号)



坂本龍馬筆『長幕海戦図』(部分拡大)に描かれた「矢の図像」

とそれが曳航する長州帆船の二隻の船団が楕円形に運動しながら門司側の砲台を大砲で攻撃する場面に「矢の図像」(根元に矢羽あり)が描かれていたのだ。拡大図をご覧いただきたいが、関門海峡上に存在する現実の巨大な「矢」ではなく、あきらかに「桜島」の進む方向を示すための「記号」である。現代人でも船の進行方向を表すものであることが分るのだ。この表現方法が龍馬の発明だとは思われないが、幕末期にはおそらく西洋の地図・海図などの影響を受けて「矢の形」が運動の方向を示すものとして認識されてきたであろうことがこの海戦図に窺えるのだ。現代人がなにげなく使う矢印「→」が日本で普及するすこし前の様子を龍馬が示してくれたのである(彼の先進性をよく示していると思う)。

コラム・龍馬のこと

「坂本龍馬の話術」

政井 寛保

龍馬と一緒に酒を呑んだら楽しかっただろうなと思ふ。その度に思ふ事がある。そもそもなぜ私達は龍馬の話術が優れていたと知っている(思い込んでいる)のだろうか?小説やドラマの影響は非常に大きい。あるいは薩長盟約の立役者としてのイメージも大きいと思われる。そこでもう少し踏み込んで検証してみると、数少ない史料の一つとして同時代に生きた陸奥宗光、佐々木高行、永井尚志、関義臣、お龍等の談話から伺い知る事ができる。次にやはり龍馬の手紙だろうか。誰もが知ってる通り140通あまりの龍馬の手紙は非常に魅力的で、さも現代人が書いた様な(相手の事を考えて書き分ける等)手紙ばかりである。手紙と話術を結びつけて考えるのは強引な気もするが可能性の一つとしては有り得る事だと思われる。最後に龍馬の育った環境に注目してみた。『上町分町家名附牒』によると郷土坂本家は様々な商人、職人達に囲まれて存在していた。その様な環境で育った龍馬は自然にコミュニケーション能力や豊富な知識、そして平等意識が身についたのだろう。以上を踏まえて考える限りやはり龍馬は卓越した話術の持ち主だったと考えられる。勿論、龍馬には人間の魅力、天賦の才があったのは間違いない。その上で身分を超えた幅広い人脈を築き、その中で得た知識が龍馬の話術に繋がっていったのであろう。今やネットやSNSの発達で世界中の人と繋がる事ができる便利な世の中になった。が果たして龍馬の様なコミュニケーション能力や話術が身につくだろうか?どうでしょう?ただ没後150年たった今でも人としての繋がり、対話の大事さを現代の私達に教えてくれている様な気がします。私も遠く及ばずながらも龍馬の様な話術を身につけたいものです。

“話してみるかよ”

「大石団蔵のこと」

宮 英司

大石団蔵(1831~1896)。香美郡野市村横井出身。幼名は鹿之助。脱藩後は高見弥市。密航留学中は松元誠一を名乗る。

文久2(1862)年4月8日の雨の夜、那須信吾、安岡嘉助とともに高知城下で藩の参政・吉田東洋を暗殺、その首を鏡川河原にさらして脱藩。京都の長州藩邸に逃れ、久坂玄瑞の保護を受けた。のち薩摩藩邸に移り、潜伏20か月ののち、薩摩藩士・奈良原喜八郎に保護され薩摩入り。高見弥市と改名後、薩摩藩士に召し抱えられる。慶応元(1865)年、五代才助らとイギリスに密航留学。森有礼とともにロンドン大学(ユニバシティ・カレッジ)化学教授グレインの家に寄宿して「運用測量、機関学、数学」を学んだ。2年後に帰国し、鹿児島県立中学校造士館(旧制七高)で算数教師を務める。1896(明治29)年鹿児島市で病没。

調べたいことは、この時代の薩摩に潜入できた秘密は何だったのかということ。また、同志である那須信吾、安岡嘉助が吉村虎太郎の大和・天誅組蜂起に参加し、敗北・死去したのに、異なる道を選んだこと。さらに、66歳で死去するまで異国ともいべき薩摩で暮らした心情、……と果てしなく出てくる。

西鹿児島駅前広場に「若き薩摩の群像」が建立されて40年。説明書きには「薩摩藩は、鎖国の禁を犯し、1865年、藩士17名の留学生を英国に派遣した。」とある。実際は19名。残念ながら、他藩出身の2名、土佐の高見弥市と長崎の堀孝之が省かれた。いつの日か、2名の像を追加建立してやりたいものである。